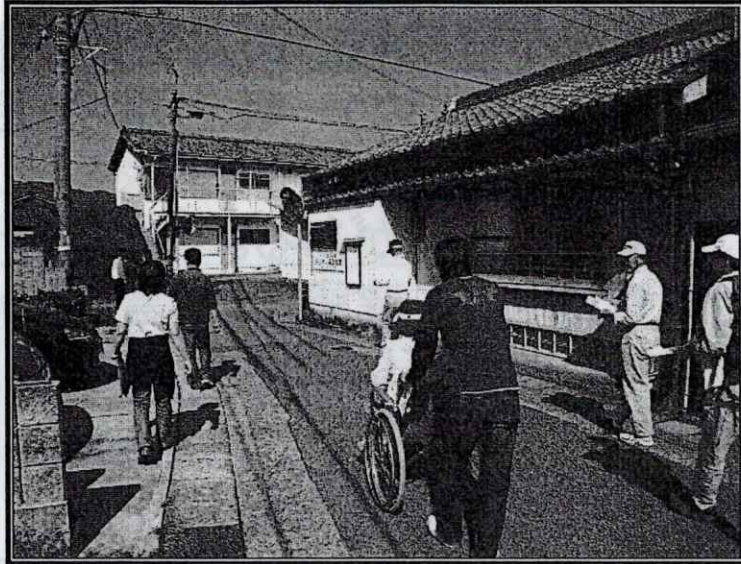


まち歩き

(災害時要配慮者の避難支援)



令和2年10月4日 和歌山市

本日のスケジュール

- 13:30～14:10 事前説明、出発準備
- 14:10～15:10 まち歩き
- 15:10～15:20 (休憩)
- 15:20～16:10 ワークショップ
- 16:10～16:50 グループ発表
- 16:50～17:00 解説

まち歩き（避難誘導ワークショップ）とは①

災害時に、高齢者や障害者等の災害時要配慮者が安全かつスムーズに避難できるよう、

平常時に、災害時要配慮者のお宅から避難場所までのルートを車いすやリヤカー等を用いて避難誘導を行いながら歩く実習です。

その際に、通行に支障があるような箇所や災害時に役立つ地域資源などを確認し、災害時に心配なことや支援する上での課題等について、参加者が話し合い、結果をまとめ、発表します。

2

まち歩き（避難誘導ワークショップ）とは②

災害を知る、まちを知る、人を知る

■みんなで、災害を知る

地域で起こりうる災害について、講師を招いて防災学習を実施
その後、市町村で配布されているハザードマップなどを確認

■みんなで確認しながら、まちを知る

①地域の危険性を見て知る

自然の危険、人のもたらず危険（建物、転倒物）

②防災資源（防災倉庫、可搬型消防ポンプ、耐震性貯水槽、防火井戸等）

③被害を減らすための事前対策

避難路の整備、耐震性貯水槽の設置、防火井戸の設置

資機材の整備、倒れない建物・転倒しないものへ変更など

■人を知る

助けが必要な人（災害時要配慮者）、助ける側に回ることができる人

3

災害時要配慮者の範囲

災害時要配慮者とは、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの災害時の一連の行動をとることに支援を要する人々

- 高齢者(一人暮らし、寝たきり、認知症等)
- 身体障害のある方、知的障害のある方、自閉症等の発達障害のある方、精神障害のある方
- 常時特別な医療等を必要とする在宅療養者
- 乳幼児、妊産婦
- 日本語に不慣れな在住外国人等

要配慮者のうち、自ら避難することが困難で避難に支援を要する人々⇒「避難行動要支援者」

4

災害時要配慮者の避難支援体制

市町村が主体となり、避難支援体制の整備に取り組んでいます。

1 情報の収集

在宅の災害時要配慮者の全体把握を行うため、市町村が避難行動要支援者名簿を作成します。

2 「避難行動要支援者」の避難支援

平常時から名簿情報を提供することに同意している方については、名簿情報に基づいて避難支援を行います。

※「避難行動要支援者」の範囲は市町村により異なります。

3 避難支援プラン(個別計画)の作成

さらなる避難行動支援のために、地域の特性や実情を踏まえつつ、名簿情報に基づき個別計画を作成します。

個別計画では、避難行動要支援者の特性に応じて、情報伝達や避難誘導の方法、避難支援者など、避難支援に必要なことを具体的に定めます。

4 避難支援の実施

災害が発生したとき又は発生するおそれがあるときには、名簿情報・個別計画に基づき、避難行動要支援者への安否確認や避難誘導等の支援を実施します。

5

避難行動要支援者を支える地域支援

市町村

- ・避難行動要支援者の名簿作成 →把握
- ・避難支援プラン(個別計画)作成
⇒支援者のマッチング

災害対策基本法改正
(平成26年4月施行)

- ・市町村の名簿作成義務化
- ・各支援機関との情報共有

地域の取組を促進させることが必要

県の主な取組

- ①支援マニュアルの作成(市町村向け)
→市町村が避難支援プラン作成
- ②支援者向けハンドブック作成など
- ③支援活動に必要な資機材の整備に
対し、市町村に補助(1/2)

災害時要援護者
避難支援ハンドブック

～ 避難支援者の皆さんへ～



このハンドブックは、災害時要援護者の避難支援を
行っている自治体関係者の手帳として発行。
日頃の個人と支援者間の信頼関係の構築についてまとめたものです。

平成25年3月
和歌山県

県作成の支援者向け
ハンドブック

6

災害時要配慮者支援の方法(例)

- 班などの小さな単位で情報伝達する
(町会からの「連絡員」体制を普段から設けておく)
- 安否の情報収集・運用等の体制をつくる
(支援者を決めておく、マップづくりを行う等)
- 救出・救護に携われる人的資源を確保しておく
- リヤカー、タンカ等の搬送手段を確保しておく
- 避難路の安全確認のためのまち歩きや避難ルート
作成を行う(「避難誘導ワークショップ」)

7

役割分担（1班約10人）

班長(1名)	避難誘導訓練の指揮 ワークショップでの進行
災害時要配慮者 (1名)	災害時に自力で避難することが困難な人
支援者(1名)	災害時要配慮者の支援
記録係(1名)	避難ルート・チェックポイントを観察・記録
測量係(1~2名)	狭い道幅などを測量
先導係(2名)	避難中の交通状況注意
アプリ係(1名)	「和歌山県防災ナビ」アプリを使用 ※スマートフォンなどでアプリ使用可の方
発表者(1名)	ワークショップでの班でまとめた意見を発表

8

準備するもの

【まち歩き(避難誘導)】

- 車いす(又はリヤカー、担架)
- 地図(住宅地図、学区の地図など目的により)
- 記録用紙、筆記用具
- ~~巻尺、方位磁石、のぼり旗、デジタルカメラなど~~

【ワークショップ】

□文具類

- (セロハンテープ、のり、名札、はさみ・カッター、
<太・細>カラーマジック、<大小>ドットシール、
付箋紙、模造紙等)

- 被害想定データ、ハザードマップ等

9

記録用紙（記入用）

◆ 記録用紙【記入用】

〔記入欄〕

班	ルート	担当：・班長 ・要配慮 ・支援・記録 ・先導・アプリ	氏名
---	-----	----------------------------------	----

〔記入例・見本〕

場所名	記録	撮影の留意点
番地や道・建物・交差点の名前	各チェック地点、また避難コース上にある急坂、車、外灯、塀、看板、段差などの撮影する上で問題となる点や注意点を記録する。	チェック地点、記録係が記録した地点、自分で必要と思った場所を撮影する。
〇〇通り	道路の幅員が狭く、両側に古いブロック塀	道路と塀を一枚に
〇〇番地	古い木造建物が密集	連担状況をとる
〇〇交差点	見通しが悪く、平時でも出会い頭の事故の心配	角度を変えて何枚かとる

〔記入欄〕

場所名	記録

10

訓練の設定

あなたはこの地域の自主防災組織の構成員です。

本日14時10分に、南海トラフを震源とする

南海トラフ巨大地震(M9.1)が発生。

この和歌山市でも**震度7**の強い揺れ。

あなたは、地域の災害時要配慮者のお宅から避難場所までのルートを車いすを用いて避難誘導します。

また、同時にまちを確認します。

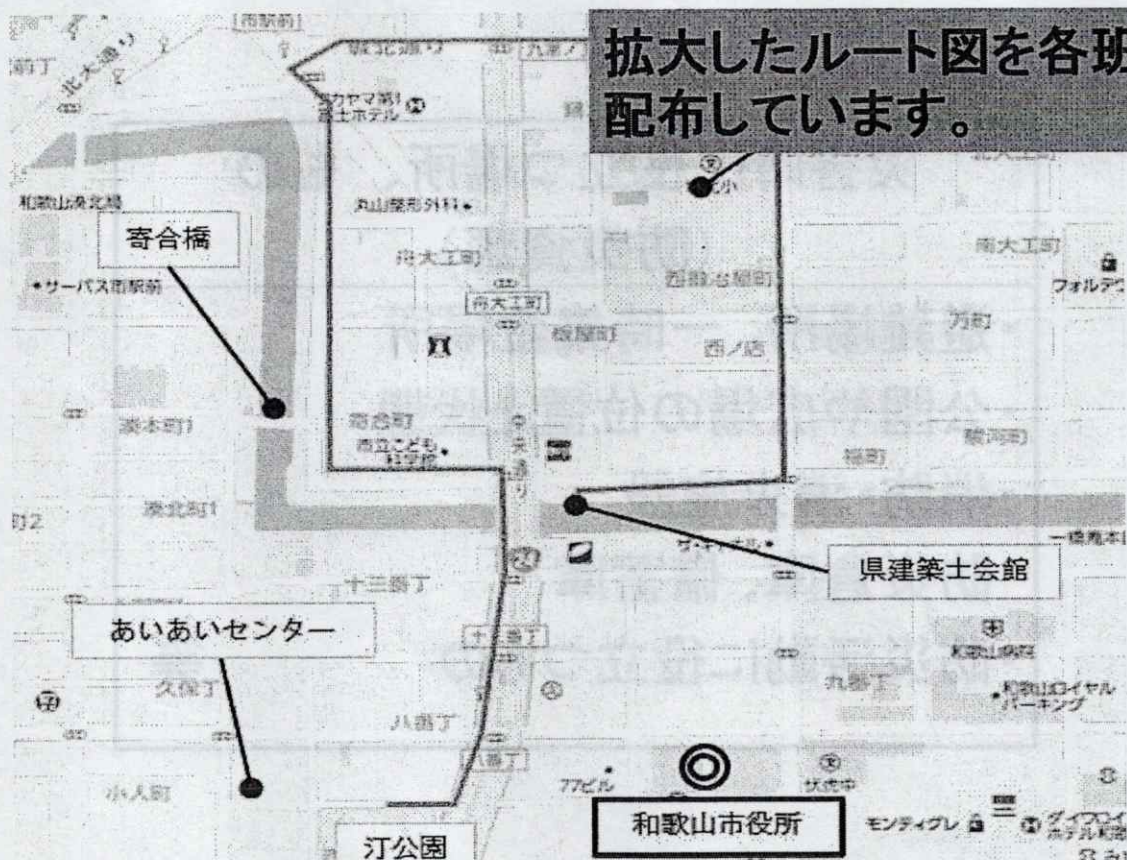
11

設定表（前提、概要）

発災想定	10/4 14:10 南海トラフを震源として、M9.1の地震が発生（南海トラフ巨大地震） 和歌山市でも 震度7 を観測
集合場所	ルート図参照
集合時間	14:10
避難誘導方法	車いす
避難誘導必需品	地図、記録用紙、筆記用具他

12

班別のまち歩きコース



13

まち歩きで確認するポイント①

避難に支障となるもの

- ・道路に関するもの
(幅が狭い、坂や段差、通行の障害になるもの等)
- ・建物、街並みに関するもの
(老朽化した建物、窓ガラスの飛散等)
- ・倒壊、転倒しそうな危険施設
(ブロック塀、自動販売機等)
- ・土地や地盤に関する問題
- ・危険物施設
(石油類など危険物貯蔵施設 等)
- ・出火の可能性が高い場所

14

まち歩きで確認するポイント②

災害時に役立つ場所、もの (防災資源)

- ・避難場所、一時集合場所
- ・公園や広場の位置と状態
- ・消防・消火施設
- ・防災倉庫、備蓄庫
- ・防災活動に役立つもの 等

15

防災ポータルアプリ「和歌山県防災ナビ」

○避難先検索

- ・災害発生時に安全に避難するための避難場所を簡単に検索
- ・避難場所の安全レベルを確認でき、最短ルートを表示



安全レベルの確認



ルート表示

○防災情報のプッシュ通知

- ・事前の登録なしで、警報・注意報等の防災情報を通知
- ・別の市町村に移動しても、その市町村の避難情報を通知

○家族等が避難した場所の確認

- ・てんでんこに避難した登録者の居場所を地図上で確認



家族等の居場所を地図上に表示



避難トレーニング結果の確認(巨大地震)

○避難トレーニング

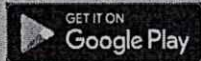
- ・トレーニングした避難経路や要した時間を記録
- ・南海トラフ巨大地震の津波到達時間の想定を重ね、避難行動の安全性を確認

無料でご利用いただけます。

(アプリのダウンロード・ご利用にかかる通信料は利用者のご負担となります。)



iOS9以降



Android4.4以降



QRコード



アイコン表示

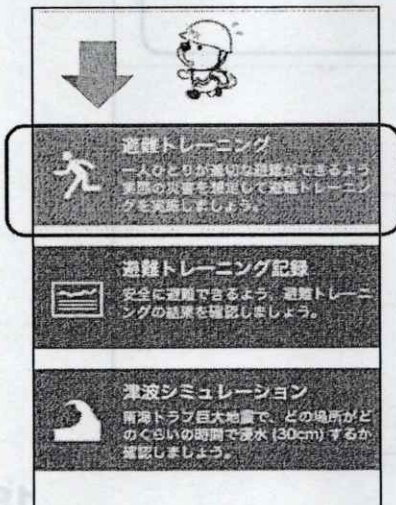
16

防災ポータルアプリ「和歌山県防災ナビ」

「和歌山県防災ナビ」の避難トレーニング機能を使用すれば、避難訓練で通った避難経路や避難に要した時間を記録でき、避難訓練後に結果を振り返ることができます。

避難訓練中

①避難トレーニングをタップ



②避難先検索を行い、避難先を選択



今回は汀公園
(市役所西側)を
避難先に選択

17

防災ポータルアプリ「和歌山県防災ナビ」

避難訓練中

③避難場所の内容を確認後、避難トレーニングを開始



避難開始

④避難終了後、「避難完了」をタップ

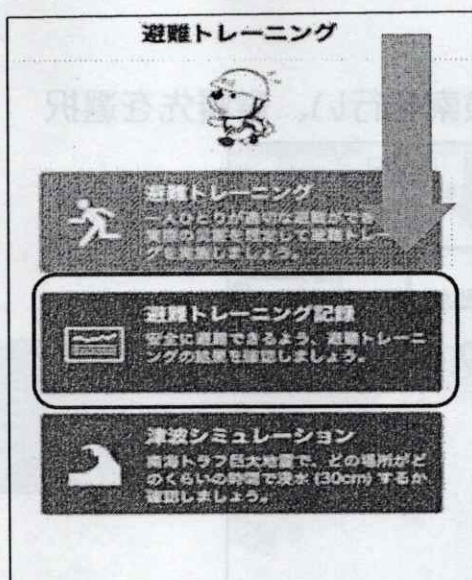


18

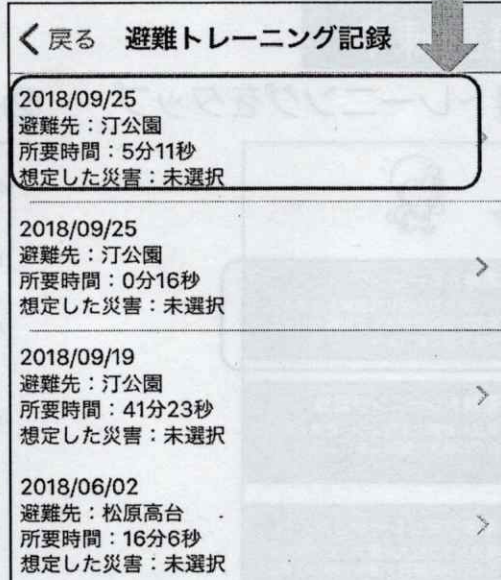
防災ポータルアプリ「和歌山県防災ナビ」

避難訓練後

①「避難トレーニング記録」をタップ



②確認する記録をタップ

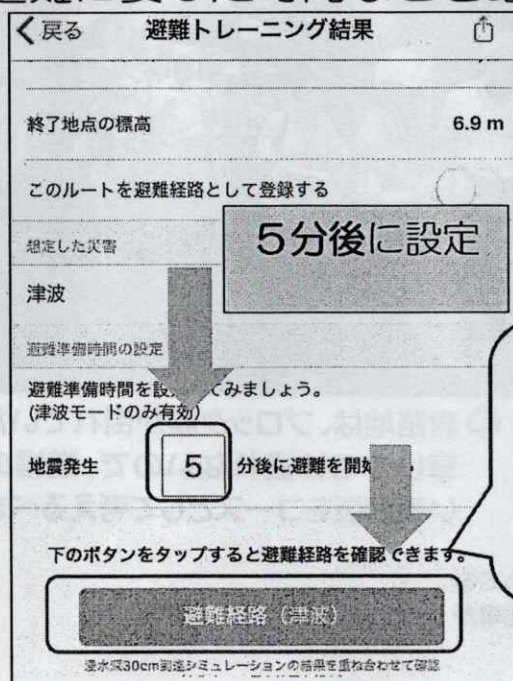


19

防災ポータルアプリ「和歌山県防災ナビ」

避難訓練後

③避難に要した時間などを確認



④避難行動の安全性を確認



使用した避難経路を確認可能。トレーニング記録に南海トラフ巨大地震の津波の到達時間等の想定を重ねることも可能。

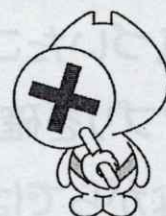
20

防災ポータルアプリ「和歌山県防災ナビ」

○留意事項

- ・各班内で、アプリをダウンロードしていただける方の中から、「アプリ係(1名)」を選定してください。
- ・アプリ係以外の方も、ぜひご使用ください。
- ・コントローラーに1台ずつタブレット端末を配布しています。操作方法などで不明な点がある場合は、コントローラーがタブレット端末を使用しながら説明します。
- ・班内でアプリを使用できる方がいない場合は、コントローラーが所持するタブレットを使用しますので、参考にご覧ください。
- ・「まち歩き」中に、スマートフォンなどの画面を確認するときは、一旦立ち止まるようにしてください。

「歩きスマホ」は危険です！



21

まち歩きの様子



● 商店街は車も多く、看板や水銀灯などもあり、避難ルートとしては危険なのではないか。



● 裏路地は、ブロック塀が倒れていたら車いすでは通れないので、道幅の広い商店街をコースとして考えるべきだ。



● 道路の脇に止めてある自動車や自転車が気になった。

22

まち歩きでの注意事項

- ・周辺住民の方の迷惑にならないようにしてください。
- ・他人の敷地には入らないでください。
- ・車など交通事故に注意してください。
- ・住民の方に何をしているのか聞かれたら、きちんと説明してください。
- ・歩いている最中は、あまり大きな声でしゃべらない。
- ・特に、「このブロック塀は地震で壊れるんじゃない!？」など、持ち主が聞いたら気を悪くするような事を大声で言わないよう注意してください。
- ・気づいたことはメモするようにしてください。
- ・アプリを確認するなど、スマートフォン等を使用する際は、歩きながらではなく、立ち止まるようにしてください。

23

ワークショップの進め方

役割分担

- ・**班長** : 進行を行います。
- ・**発表者**: 班で話し合った結果を発表します。

24

ワークショップのルール

- ・相手の意見を否定しない。
- ・相手の意見をよく聞く。途中でさえぎらない。
- ・楽しく和やかに議論する。

たくさんの意見が出るような環境を作る事を意識しながら行いましょう。

25

気付いたことをまとめましょう

○各自、自分の考えを他人に相談せずに付箋に書く。

- ・避難に支障となるもの
- ・災害時に役立つ場所、もの

○似ている考えの付箋を集めて整理する。

26

まち歩きのリポートを記入

まずは、周りの人と相談せずに、まち歩きで見つけた物、気づいた事を、それぞれ付箋に書き込みます。

避難に支障となるもの

ブロック塀

地震で倒れたら道をふさぐ。

看板

地震で外れて落ちてくる。

道路のくぼみ

車イスが引っかかる。

災害時に役立つ場所、役立つもの

消火器、消火栓

火事を消すことができる。

病院

ケガ人の手当ができる。

AED

?????

27

続いて、みんなで対策を考えます

まちの危険な場所や、危険な物が見えてきましたか？
それでは、どのような対策をとればいいのかを、皆さんで話し合い、黄色の付箋に書き込んでみてください。

分けて
考えてみる

① 個人でできる対策

② 地域で取り組む対策

③ 行政に要望する対策

ワークショップのルール

①否定しない ②よく聞く ③和やかに

記入例

①個人
ブロック塀の
改修を行う。

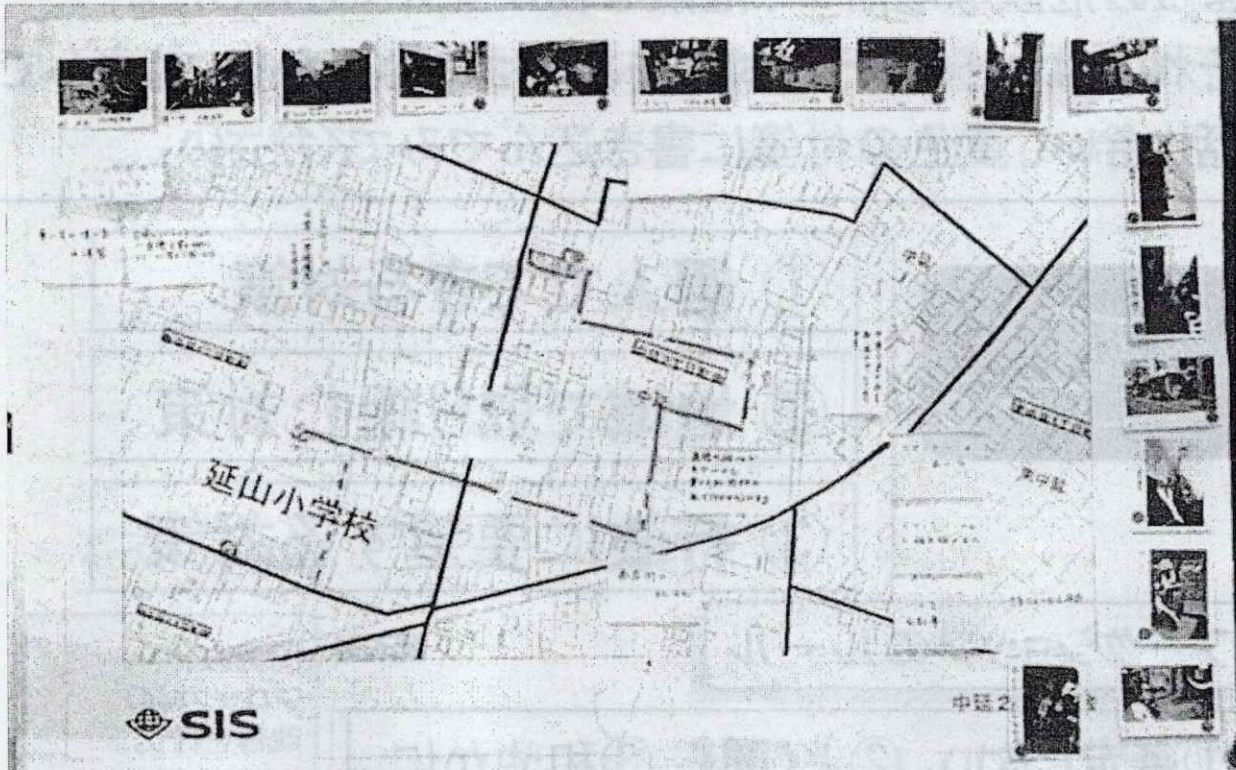
28

出された意見を地図へ書き込みます



29

このような地図をつくります



30

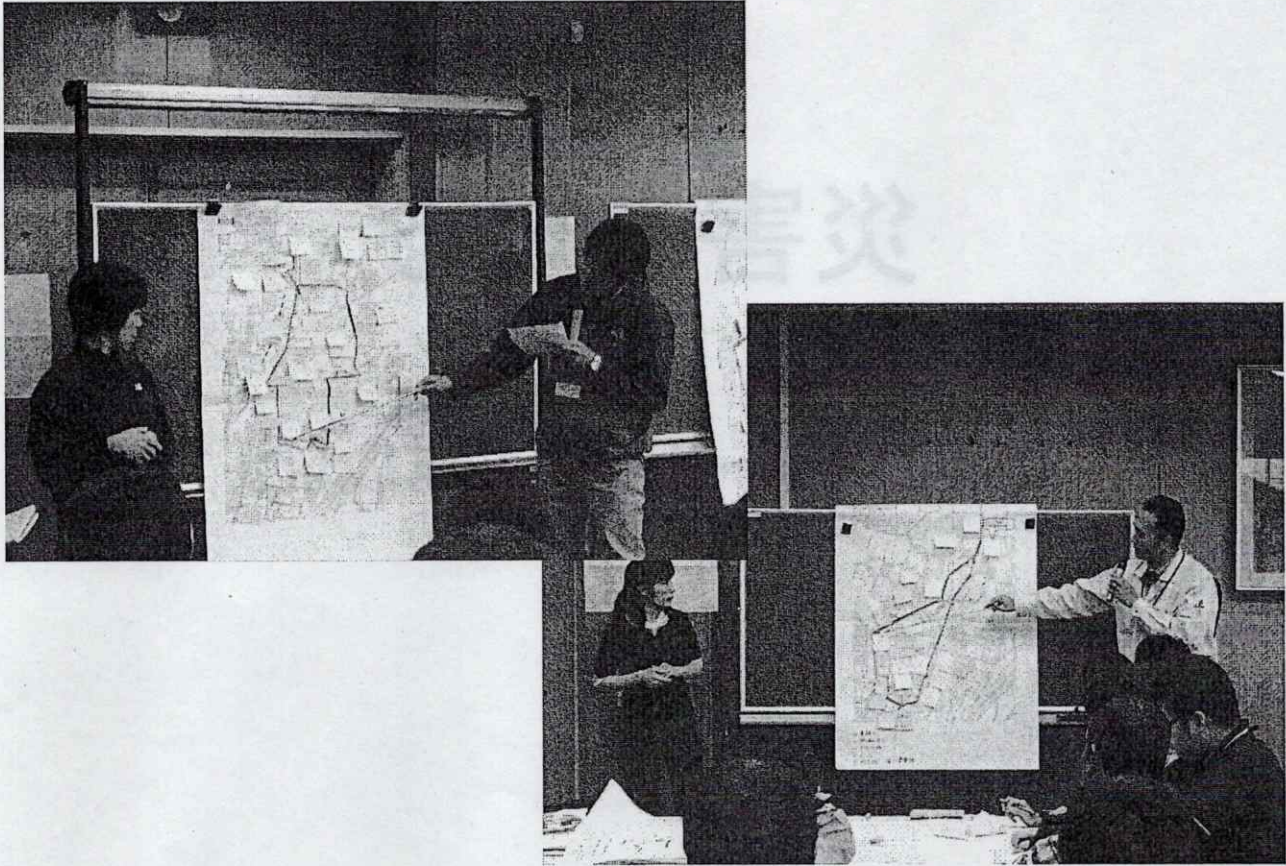
班ごとに発表してもらいます

順番に、話し合った結果を発表してください

1. 避難に支障となるもの
(危険な場所、もの)
2. 災害時に役に立つ場所、もの
3. 班の中で考えた対策
 - ① 個人でできる対策
 - ② 地域で取り組む対策
 - ③ 行政に要望する対策

31

まとめと発表の様子



32

班の進行で留意すべきこと

(1) 出発点・目的地(避難所)、
ルートを地図に書く。

~~(2) 写真と地図上の位置に通し
番号を付ける~~

(3) 気付いたことを付箋に書く

(4) 意見を順に発表し、付箋を
整理する

(5) ~~写真と付箋をセットで貼る~~

(6) 班別に発表する

(7) 意見交換する

(8) まとめ、課題を確認する

付箋紙1枚に1つの意見を書く。

進行役は全員が公平に発言
できるように配慮する。

他人の発言を否定、批判しな
い。

同類の内容を「表札」で括る等
して整理する。

時間厳守で、要領よくまとめて
発表する。

進行役は、参加者の目線に
立って、社会的役割を考慮し
て意見を引き出す。

33

災害を知る

災害のイメージをもちましょう

34



阪神・淡路大震災

35

倒壊した家が道をふさぐ



熊本地震

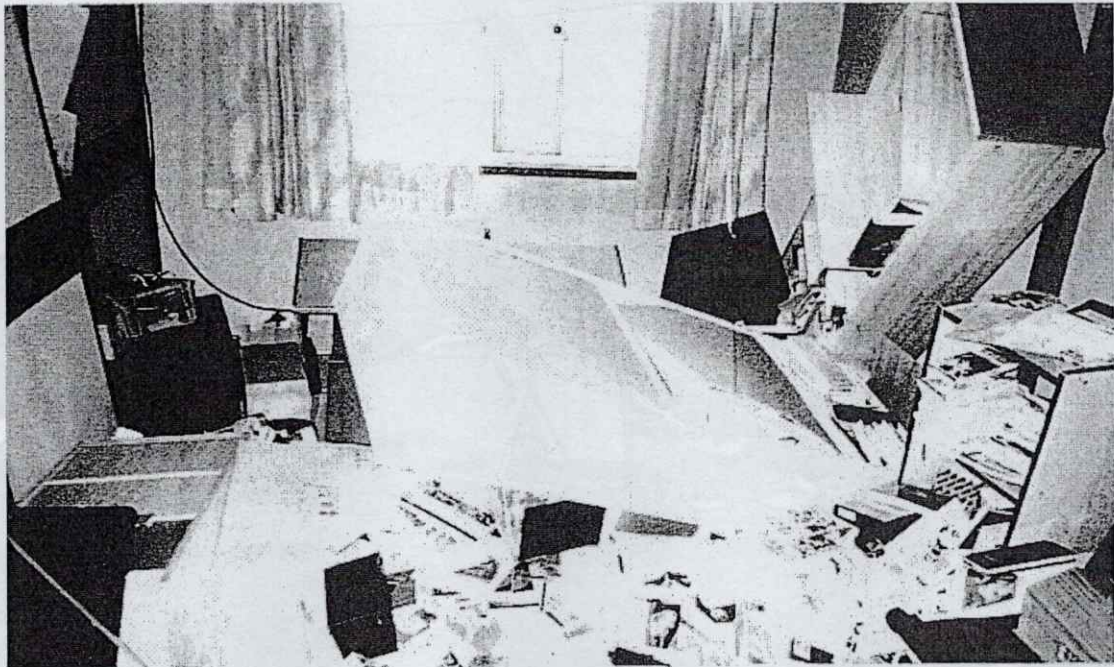
36

倒れたブロック塀が道に落ちている
道路が崩壊する



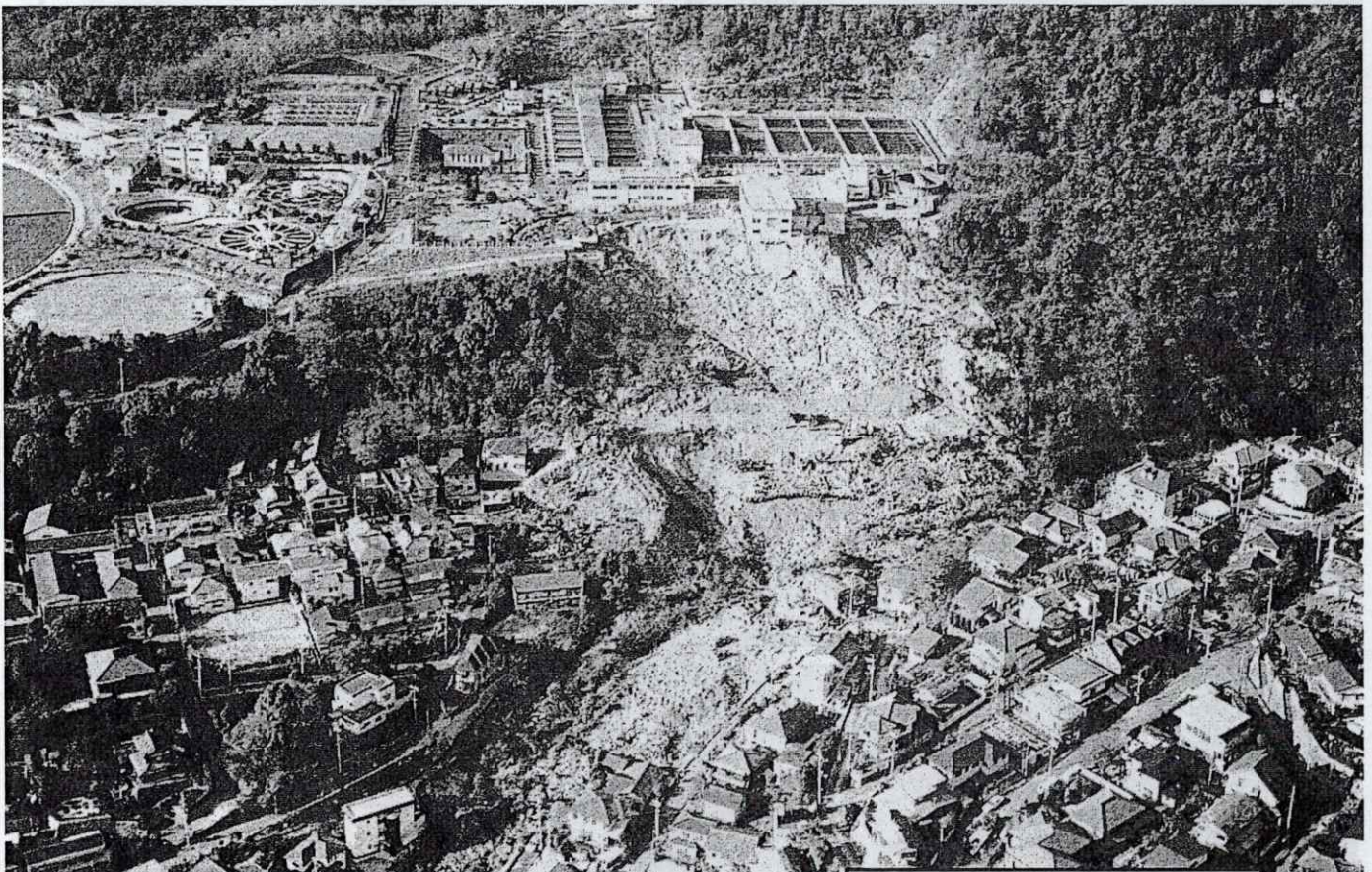
熊本地震

37



震が本州

大規模地震による土砂災害

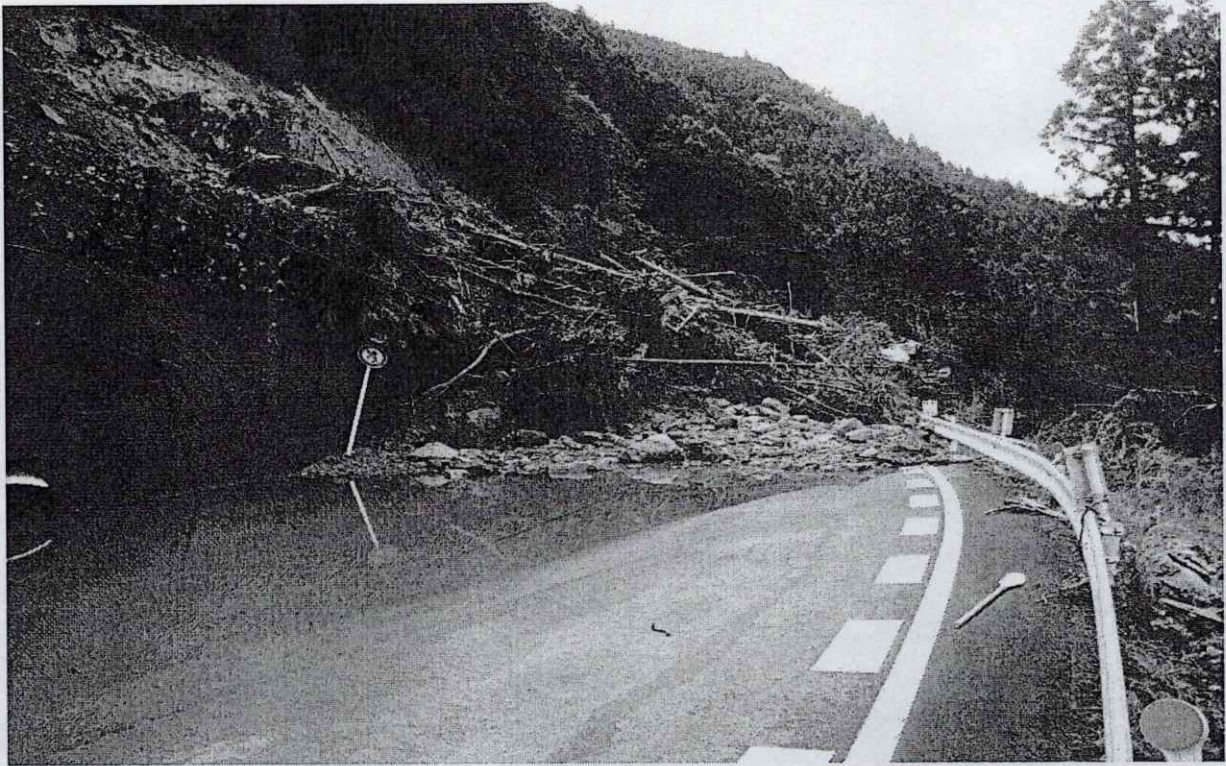


西宮市仁川 地すべり

津波により破壊された町



土砂災害



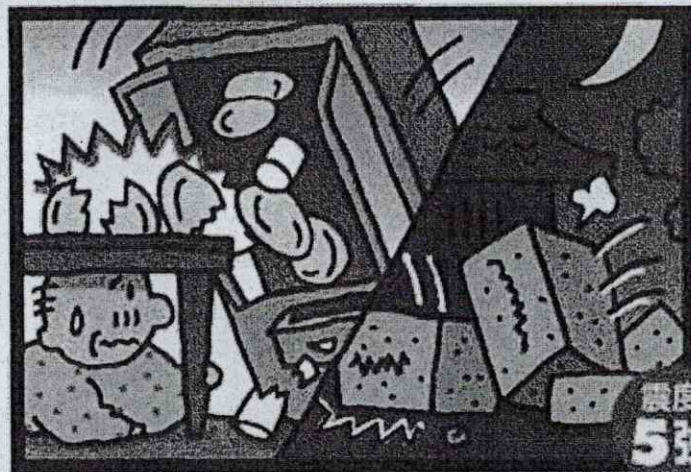
H23.9月 台風12号

災害大本日東

下げ物は激しく揺れ、
書棚の本が落ちることもあります。
多くの人が
身の安全を図ろうとします。



震度5

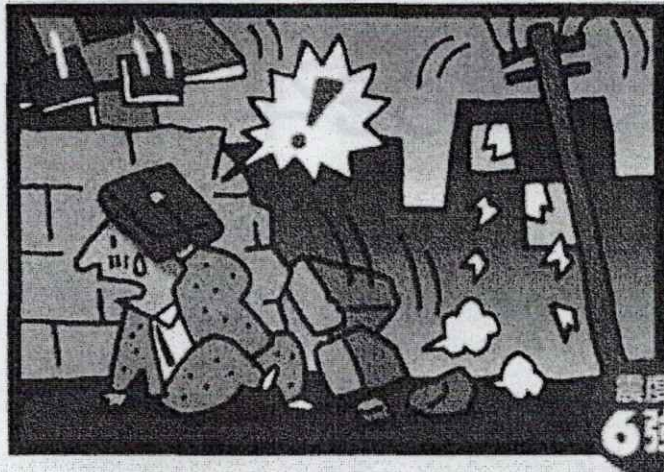
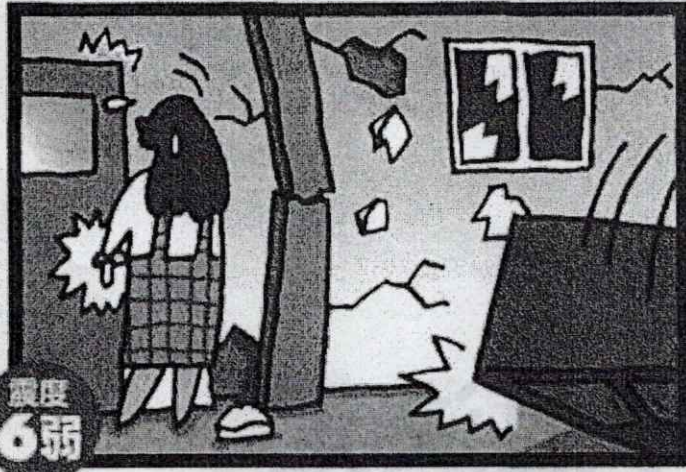


かなり激しく揺れ、家具が倒れ、食
器等が落ちて散乱します。
多くの壁石が倒れます。

災害大本日東

震度6

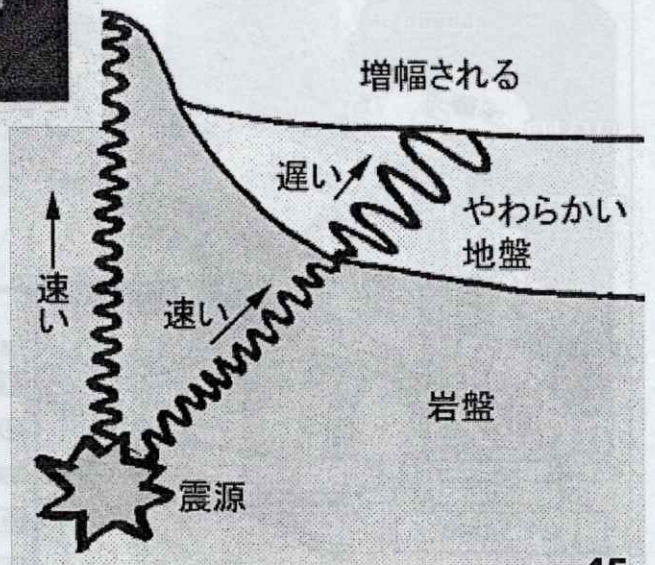
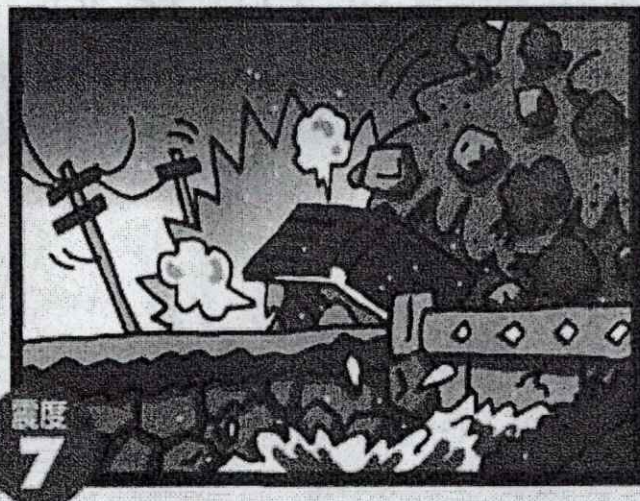
立っていることが困難になり、大型家具の多くが移動、転倒し、かなりの建物で壁にヒビが入ったり窓ガラスが破損し、多くのドアが開かなくなります。



立っていることができず、補強されていないブロック塀のほとんどが崩れます。弱い木造建物の多くが倒壊します。

震度7

建物の倒壊が起こり、山崩れ、大きな地割れが生じ、堤防や橋げたなど、広範囲にわたって被害が予想されます。



各班

①自己紹介

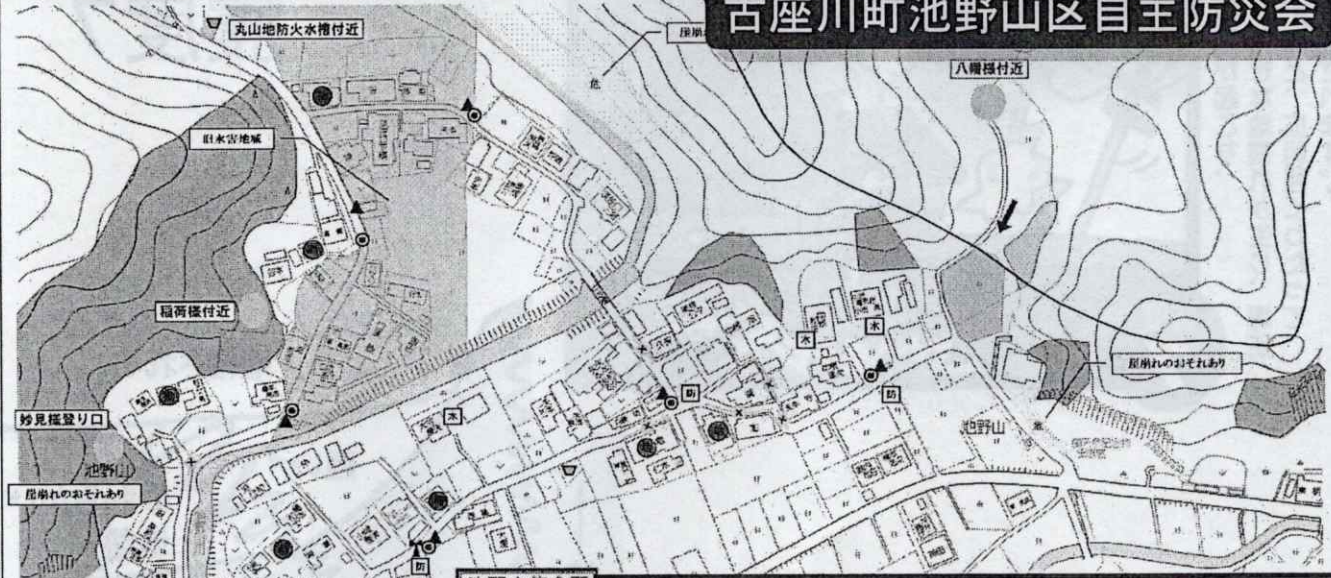
②役割分担決定

③出発準備

応用編：「地域防災マップ」づくり

池野山区自主防災会 防災マップ

古座川町池野山区自主防災会



地図凡例

【活用できる地域の資源】

- 指定避難施設
- 消火栓
- 防火水槽
- 防災器具庫
- 井戸水など

- 津波一時避難場所
- ホース格納庫
- 大型消火器
- 防災行政無線
- オープンスペース

【避難支援】

- 避難の支援が必要

【地域の危険箇所】

- がけ崩れ
- 土石流
- 水害危険地域
- 道路寸断のおそれあり
- 危 危険注意

応用編：「地域防災マップ」づくり



お疲れ様でした

ぜひ、お住まいの地域でも、
みなさんが中心となって、
「まち歩き」をしてみてください。
いろんな「発見」が、きっとあります。